

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970500484		
法人名	社会福祉法人 久寿福祉会		
事業所名	グループホームおしはらの里		
所在地	栃木県鹿沼市縦山町40番地2		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内中庭があり、デイサービス・学童施設と共有しています。中庭では四季折々の景色がみられ、桜・梅・金木犀・バラ・紫陽花等様々な花を見て楽しめます。施設南側には畑があり、季節により様々な野菜が収穫されます。収穫された野菜はその日の食材として使用されており、新鮮な野菜が毎日食卓に並んでいます。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出は控えていましたが、感染が落ち着いてきた時期には、車から降りない事を条件に外出を行いました。離職率が低く働きやすい環境作りにも努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日光例幣使街道沿い、畑と住宅が混在している地域に当事業所は位置している。近所には、いくつものスーパーやドラッグストア、コンビニエンスストア、小学校、郵便局があり、利便性が良い。事業所に隣接して、デイサービスセンター、保育園、学童保育施設が広い敷地内に建っており、コロナ禍以前は活発に交流も行っていた。中庭が広く、お花見の季節に美しい種類の桜をはじめ、木陰を作る様々な木々や、色とりどりの花々、種々たくさんの野菜が収穫できる畑があり、利用者の大きな楽しみになっている。利用者は、広い事業所周りを散歩したり、ウッドデッキでお茶を飲んだり自由に過ごすことができる。職員は、利用者が持てる力を発揮し笑顔で過ごせるよう心を込めて支援し、共に生活を楽している。コロナ禍にあっても事業所が閉鎖的になることなく、前向きにコミュニケーションを大切に仕事に取り組んでいる、温かく家庭的な事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和4年10月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋げる事が大切なため、職員全員から理念の案を伺い、その中から決定している。また、覚えやすいように、内容を簡潔に3つに絞った。	1～2年毎に職員全員で理念を見直している。現在はコロナ禍後①ご利用者・ご家族との信頼関係の構築②自立支援介護の実践③感染症対策の徹底、を掲げている。理念を実践するため、コミュニケーションを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流は控えている。自治会に加入している。その他、近所の方とすれ違ったときに少し会話をする程度の交流しか行えていない。	自治会に加入しているが、夏祭り等、地域との大きな交流は控えており、畑作業時や回覧を回す際に職員が近隣住民と会話する程度である。一方で、学生ボランティアや実習生は受け入れ続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書類での開催が続いている。ただ書類を発送するのではなく、事前に電話連絡でご意見を頂き、会議の内容に加えさせて頂いている。	現在は、2ヶ月に1回書類の会議となっている。事前に参加者から議題や、お知らせ、検討項目を集め、後日意見を書面や電話の聞き取りによって受け、事業所でとりまとめてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口となり、市との連絡や相談を行っている。	市職員が運営推進会議に参加しており、日頃からグループホームのことを把握している。その上で、連絡や相談を密に行い、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の話し合いの内容を、「ご利用者の生活の中で起こりうること」をテーマに進めている。そうする事で職員が想像しやすく、理解し易いよう努めている。	身体拘束委員会議の後、話し合った内容をグループホーム全体の会議で再度確認し、それぞれのユニットで起こりうることを共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日全身更衣する事で、清潔の維持の他、身体状況の確認も行っている。また、未然に防ぐために、職員同士声を掛け合い、気持ちにゆとりが持てるよう努めている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人がついていての方がいた為、その時の経験を基に職員間で時折話し合う時間をもっている。また、地域包括支援センターの職員に話を伺い知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が重要事項説明書と契約書を基に十分な説明を行い、書面による契約を結んでいる。入所後も随時ご家族の意見を頂き、説明・対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々傾聴に努め、ご家族の面会や通院時を利用し、話しやすい環境づくりに努めている。運営推進会議において意見や要望をうけている。	コロナ禍のため面会や物品のお届けなどで、家族が訪問することが難しくなっているが、職員からご家族に話しかけ、要望を出来るだけ聴くようにしており良好な関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダー・介護支援専門員から積極的に意見交換を行い、話し合いの末必要なことは反映している。	日頃から、会議だけでなく、職員と話し合う機会を作っている。また、年3回、法人の面談も行っている。職員間の会話、連絡ノートを活用し、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に3回職能面接表を用いて面談を行い、話し合いの中で課題や目標を明確にしている。また、より働きやすくなるよう職員の生活環境を確認しながら毎月の勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を促し、スキルの向上に努めている。支援や業務に疑問を持っていただくことで理解を増やし、視野を広く持てるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加や県の老人福祉施設協議会主催の研修を通じて、共通認識の再確認や情報交換によりサービスの質を維持・向上に繋げている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての環境に不安や戸惑い、混乱する事が考えられる為、積極的に声掛けし、話し易い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後にそれぞれに様々な疑問や思いを抱くことが予想されるため、相談しやすい関係が早く作れるよう、会話の中からご家族の思いを理解できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族の要望を伺っておくことで、ご家族が望む事を理解し、ご本人の生活に無理のない範囲で要望を取り入れている。ご本人の要望は、生活の中でその都度伺い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が共同で生活を送れるよう、職員がご利用者の理解に努め、お互いが協力して生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とその都度話し合いながら、ご家族と共にご本人を支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が収まらぬ中、出来る限りご家族との面会が出来るよう対応に努めた。感染症が落ち着いてきた所を見計らい馴染みの場所へのドライブをする事が出来た。	コロナの感染防止対策を徹底しながら、家族との面会を制限しないよう事業所内で対応できる体制づくりに力を入れており、家族対応ではあるが馴染みの美容室への外出も今までと変わらず行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が今おかれている状況を常に把握し、ご利用者同士が不快な思いをしないよう、環境の変化や間に職員が入ることで良好な関係の維持に努めている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後、次のサービスを円滑に受けられるよう、情報交換等連携し対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりと個別に関わる事で、思いや要望を理解することに努めている。意思表示が困難な方については生活歴や表情、仕草等で見極め本人本位の対応に努めている。	利用者の担当職員を中心に、コミュニケーションを多くすることで思いを把握するよう努めている。事業所内でも利用者が行きたい所に自由に行けるよう、抑制はせずに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入前ご家族に自宅での様子やサービス利用時の様子等を伺い、出来る限り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりと毎日向き合い、接する事で現状把握に努めている。また職員間で情報を共有する事で、職員全員が個人を理解することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご家族の意見を伺い、介護計画に反映している。ご本人については、支援していく中でより生活しやすいようなケアを模索している。	半年に1回を目安に介護計画を見直している。家族の意見は普段から接するたびに聞いたり、面会時に相談している。また、月1回薬剤師と話し合い、意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で個別ケアに取り組み、情報を共有し実践している。その情報を介護計画作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、出来る範囲でご家族の要望に応えられるよう対応している。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、通院とドライブ、面会のみ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診があり、施設からの相談に助言をいただいている。ご本人、ご家族の要望により医療機関を受診されている。医療機関と連携をとり、必要な情報は提供している。	家族の通院共助で、入居前からのかかりつけ医を継続する利用者もある。協力医の月1回の往診の他、何かあれば電話で相談している。職員が医療やケアについての質疑応答を、書面で医師や看護師とやり取りする体制が整っており、より充実した医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を医療連携看護師と連絡を密にする事で、情報共有し連携を図っている。また、必要に応じてかかりつけ医療機関に相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り情報提供を行っている。入院中には、ご家族もしくは病院関係者から情報を頂き、職員に周知している。退院前には、必要に応じ病院関係者とカンファレンスを行い、円滑に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは現在行っていない。必要に応じ、ご家族に状況を報告する事で情報の共有と重度化に向けた話し合いを行っている。	看取りは行っていないが、利用者の状態が徐々に悪化した際、家族と相談し、終末期に向けた対応を検討している。利用者が個別に訪問看護や医師と契約して、グループホームで看取りを行うことは可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で救急対応訓練を定期的に取り入れている。訓練では参加した全員が実際に急変した状況を想定した訓練を行っている。また、業務中にも職員同士声を掛け合い日々確認もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害マニュアルの作成及び災害時の避難訓練を定期的実施している。職員全員が分かりやすいよう避難経路と避難場所を絞り対応している。	年2回、昼夜それぞれを想定した避難訓練を行っている。隣家が火災になった経験も踏まえ、職員の声掛けや移動場所を決めている。3日分の備蓄を、消費期限をチェックして使いながら管理している。	職員の安心と防災意識向上のため、日頃からシミュレーションを兼ねた小さな訓練を繰り返すことが期待される。

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するために敬語を使用している。	法人理事長の、言葉の使い方で虐待に繋がるという懸念から、丁寧語の「ですます」調で、呼び名は「さん」付けと職員を教育している。トイレの声掛けは耳元で小声で、または紙に書いて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と良好な関係を築けるよう工夫して声掛けを行い、より思いや希望が聞けるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごして頂くために、玄関の鍵は常に開いており、ご本人の意思で散歩に行けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日違う服を着て頂いたり、選べる方は自分で着て頂いている。衣替えは職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お寿司の好きなご利用者が多いので、お寿司の提供をまめに行っている。要望を聞いたり、訴えがあった時には提供をしている。	管理栄養士の作成したメニューを、併設のデイサービスと共通で提供する時以外は、職員が調理している。事業所の畑や法人本部で収穫した野菜を豊富に取り入れている。毎月お寿司のテイクアウトをしたり、行事に合わせた食事を松花堂弁当箱で提供し楽しむ等、より豊かな食事が提供できるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの水分量を確認し、水分量の把握を行っている。水分摂取が少ないご利用者には、声掛けや好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔ケアの声掛けや確認を行っている。毎月協力医と連携を取り、ケアの課題と助言・指導を頂いている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、トイレの声掛けを行い排泄の失敗を減らす支援をしている。	利用者の排泄のタイミングに合わせたトイレ誘導を行い、各々の体調に合わせてトイレでの排泄ができるよう支援している。オムツやリハビリパンツ、パットを適切に使いながら自立した排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖の活用や散歩をしたりして、トイレでの自然排便が出来るよう支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	こまめに入浴出来るよう対応している。通院があるご利用者は前日に入浴している。お湯の温度は個々の好みの要望に合わせている。	入浴の時間、回数は利用者の希望、体調に合わせて、週2回以上、1対1で入浴できるよう支援している。拒否があった場合は、声掛けのタイミングや対応の職員や日を変える等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調や状況を見て、就寝の声掛けを行っている。日中、傾眠が見られるご利用者には、声掛けし居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月1回薬剤師との面談があり、服薬状況や薬の効力・副作用とについて話し合いをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな音楽をかけたり、新聞を読んで頂いたり、洗濯物をたたんだり、食器拭きをして頂いたり、役割や楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスの感染予防対策をしつつ、状況を見てドライブ等の支援を行っている。	6月からドライブを復活させ、外出の機会を増やしている。散歩やベランダでのお茶のみ、外気浴、庭での行事にバーベキューをする等、外出を楽しめるよう工夫している。	

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、ご利用者との買い物は現在行っていないものの、ご利用者から要望のあった物を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から電話を掛けたいとの要望があった時には、電話をかけて話をして頂いている。また、ご家族から電話があった時にはご利用者につないで話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂くために、季節感のある物を展示したり、花を飾ったりしている。トイレの場所には分かりやすいように張り紙をしている。	リビング、通路、トイレ等、どこもゆったり広いスペースが確保されている。床暖房が設置され、24時間換気を行っている。季節の飾りつけを施し、楽しめるよう工夫している。リビングの吹き抜けは、認知症の利用者の安心のため、天井の高さを部分的に低くなるよう仕切りを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で座って頂いたり、1人になれるように窓際に椅子を用意し、座って頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れたものを居室に置いたり、写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう配慮している。	洗面台、エアコン、カーテン、枕元の照明、押入、床暖房が設置されている。利用者は、自分の好みのものを自由に持ち込むことができる。写真や記念の色紙、作品を飾り、利用者に合わせて部屋作りができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人が安心して自立した生活が送れるよう環境を活用し、安全に配慮している。また、洗濯や食器拭きといった役割を職員と共有する事で現在送れている生活の維持に努めている。		